

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 6 年 5 月 21 日現在

機関番号：14401

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2021～2023

課題番号：21K10206

研究課題名（和文）障害者と家族の歯科的ケイパビリティ戦略構築：多施設口腔内・ウェルビーイング調査

研究課題名（英文）Building dental capability strategies for persons with disabilities and families: Multicenter oral and well-being surveys

研究代表者

村上 旬平（Murakami, Jumpei）

大阪大学・歯学部附属病院・講師

研究者番号：70362689

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,000,000円

研究成果の概要（和文）：障害者歯科診療所8か所に通院する患者に付き添う家族700名を対象に、回答者と障害当事者の属性、生活環境、介護や体制や負担度、ウェルビーイング指標等のアンケートを実施した。同時に当事者の口腔内の評価および診療時の行動調整について調査した。アンケートと口腔内調査の結果を分析した結果、家族の属性や支援状況ごとに口腔環境といくつかのウェルビーイング指標との関連を認めた。このことは口腔環境の改善や歯科医療現場での家族へのサポートが家族のウェルビーイングを向上させる可能性を示している。またデンマークでの現地調査の結果、家族ケアと障害者歯科医療の充実が、家族のウェルビーイングに寄与していることが示された。

研究成果の学術的意義や社会的意義

障害者や要介護高齢者への口腔ケアの取り組みに関する報告は数多くある。しかし、歯科医療でケイパビリティ・アプローチを実践した報告や、障害者の口腔とウェルビーイングに関する報告はいまだ見出せず、われわれの取り組みが国内的にも先行している。したがって本研究は、障害者の歯科医療・口腔ケアおよび家族支援の関連を示したものであり、その成果は、歯科医療による障害のある人の口腔健康のみならず、障害のある人と家族のウェルビーイング向上ならびに生活向上に貢献すると考える。

研究成果の概要（英文）：A questionnaire survey was conducted with 700 family members accompanying patients visiting eight dental clinics for people with disabilities. The survey investigated the attributes and living environments of both respondents and the individuals with disabilities, as well as care systems, burden of care, and well-being indicators. Additionally, intraoral assessments of the individuals with disabilities and their behavioral adjustments during dental care were evaluated. Analysis of the questionnaire and oral examination results revealed associations between family attributes, support situations, oral environment, and several well-being indicators. These findings suggest that improvement of oral environment and support for families in dental settings have the potential to enhance family well-being. Furthermore, a field study in Denmark showed that family care and comprehensive dental care for people with disabilities contribute to family well-being.

研究分野：障害者歯科学

キーワード：障害者歯科 障害者 家族支援 QOL ウェルビーイング

1. 研究開始当初の背景

社会的に脆弱なグループの人々は、口腔衛生状態が悪く、高い歯科疾患有病率から「不平等の崖の端」にいとされている (Aldridge, Lancet 2018)。障害研究では、ウェルビーイング(身体的・精神的・社会的に良好であること)を高めるためのフレームワークである「ケイパビリティ(潜在能力)・アプローチ」(Sen, Inequality Reexamined, Oxford: Clarendon Press, 1992)が支持されている。健康分野においては、障害者が「避けられる病気にかからない」ケイパビリティを達成する戦略が必要とされている (Barreda et al., Global Bioethics 2019)。しかし、「障害者の口腔健康を達成するにはどうすればいいのか?」という問いは解決されておらず、障害者の口腔健康を達成するための包括的戦略が存在しないという社会的課題がある。このため、歯科においてケイパビリティ戦略を実践するには、未解明の障害者の口腔健康に寄与する因子を明らかにし、「誰が、いつ、どのように介入すべきか」の具体的指標を見出す必要があった。

海外に目を向けると、デンマークではウェルビーイング指標に家族ケアが含まれており、障害者への口腔ケアの実態や背景について我が国と対比させることで、障害者の歯科のケイパビリティ戦略の指標や方策を講じるのに有用であると考えられた。

2. 研究の目的

障害当事者の口腔の健康達成に寄与する因子と、「障害者の口腔健康」-「障害者・家族・支援者のウェルビーイング」関係を明らかにすることである。

3. 研究の方法

(1) 国内調査

対象者：大阪・兵庫・広島障害者歯科診療施設を受診する患者に付き添う家族アンケート

対象者(家族)の属性、介護負担度、ソーシャルサポート、QOL、ウェルビーイング指標等

対象者(障害当事者)の属性、生活環境、バーサルインデックス、利用福祉サービス、歯ブラシ回数等

口腔内調査

対象者(障害当事者)の歯数、う蝕および修復歯数、歯垢付着および歯石沈着度、OHAT-J、受診状況等

(2) 国外調査

デンマークの障害者に歯科医療について、文献調査および現地での実態調査を行う。、歯科医師・歯科衛生士に障害者の[口腔ケアと歯科予防システム]について聞き取り調査を実施する。

4. 研究成果

(1) 国内調査結果

A) アンケート結果

障害者歯科診療施設 8 か所において 700 名にアンケートを行い、583 名より回答を得た。

回答者(障害者の家族)の属性

30代~80代に分布し、40代が最も多かった(右図)。女性が89%であった。障害当事者からみた立場は母親が87%、父親が10%であった。

障害当事者の属性

19歳未満~80代に分布し、20代が最も多かった。男性が58%であった。障害の種類(複数回答)

は知的障害82%、発達障害37%、身体障害32%、難病5%、精神障害3%であった。障害者手帳取得率(複数)は、療育95%、身体36%、精神3%であった。

障害当事者の生活環境(複数)

在宅90%、グループホーム11%、入所施設3%であり、日中過ごす場所は生活介護施設46%、療育施設17%、就労支援施設17%、家や施設が13%であった。

障害当事者の利用している居宅支援サービス(複数)

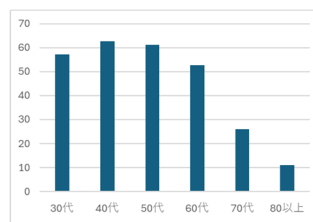
移動支援49%、短期入所36%、身体介護19%、家事援助6%、利用なし34%であった。

障害当事者の支援が必要な内容(複数)

食事59%、排せつ60%、入浴73%、服薬72%、移動75%、更衣56%、見守り76%、外出85%、話し相手51%、医療的ケア38%であった。

障害当事者の世話を担う人(複数)

父親67%、母親56%、兄弟姉妹34%、祖父母11%、配偶者3%、親戚2%、子0.3%であ



った。最も世話を担っているのは、母親 53%、父親 16%、兄弟姉妹 3%、祖父母 1%、配偶者 0.2%の順であった。

障害当事者の将来の計画について

決定済み 5%、おおむね決定 11%、半分 7%、わずか 15%、全く決まっていない 61%であった。

障害当事者の入院について

過去 1 年あたりの入院回数は、0 回 88%、1 回 7%、2 回 3%、3 回 1%、4 回以上 0.5%であった。のべ入院日数は、1 週未満 4%、1-2 週 4%、2 週-1 月 1%、1 月以上 1%であった。

障害当事者の収入について

100 万円未満 68%、100-200 万円 20%、200 万以上 1%であった。

障害当事者のバーサルインデックス

自立 29%、大部分自立 13%、部分自立 32%、全介助 26%であった。

障害当事者の歯科受診について

定期受診あり 97%、定期受診なし 3%であった。1 年間の受診回数は 2 回以下 29%、3-5 回 5%、5-10 回 11%、10 回以上 50%であった。通院を嫌がるかどうかは、とても 4%、少し 12%、嫌がらない 82%であった。治療を嫌がるかどうかは、とても 15%、少し 33%、嫌がらない 50%であった。付き添い者の歯科受診への満足度は、スタッフについて、とても満足 86%、やや満足 13%、やや不満 1%、とても不満 1%であり、施設について、とても満足 81%、やや満足 15%、やや不満 2%、とても不満 1%であった。歯みがき指導実施の有無は本人に対し、定期的 39%、たまに 24%、なし 34%であり、付き添い者に対し、定期的 41%、たまに 38%、なし 19%であった。

障害当事者のホームケア（生活の場での歯みがき）について

歯みがきをする人（複数）は、本人 50%、回答者 73%、他の家族 22%、施設職員 25%、その他 3%であった。歯みがきを担当する人数は、1 人 43%、2 人 42%、3 人 14%、4 人以上 1%であった。歯みがきをするタイミング（複数）は、起床時 15%、朝食後 66%、昼食後 37%、間食後 3%、夕食後 86%であった。歯みがきの回数は 1 回 25%、2 回 43%、3 回 28%、4 回 3%、5 回以上 0.5%であった。歯みがきを嫌がるかどうかは、すごく嫌 10%、少し嫌 36%、問題なし 54%。歯みがき時のフッ化物の使用は、いつも 46%、たまに 19%、使わない 35%。

回答者の QOL

SF-12v2 の結果（平均値）は、PF(49.3)、RP(45.8)、BP(47.5)、GH(51.2)、VT(48.3)、SF(40.9)、RE(45.5)、MH(47.6)であった。

回答者の介護負担感

負担感尺度（桜井）の平均値は 34.3、肯定感尺度（桜井）の平均値は 42.0 であった。

回答者のソーシャルサポート

MSPSS（平均値）は全体 4.7、家族 5.0、大切な人 5.1、友人 4.1 であった。

助けになる人（とても助けになる + 助けになる）として、配偶者 65%、親 28%、義親 13%、子 55%、他の家族 15%、親戚 19%、本人経由の知り合い 51%、近所の人 14%、その他 9%であった。さらに親の会やピア 24%、通っている療育・福祉施設 73%、幼保学校 19%、医療機関 67%、ボランティアやヘルパー 47%、行政・公的機関 42%、宗教・私的関係 4%であった。

回答者のウェルビーイングに関する指標

SHS（平均値）は 4.3、SOC3-UTHS は 14.6、LISK は 3.86 であった。

回答者の生活環境について

家族数は 1~8 人で、平均 3.4 人、最頻値 3 人であった。

世帯年収について

100 万円未満から 800 万円以上まで分布し、400 万円代と 800 万円以上の二峰性を示した。最頻値は 800 万円以上であった。

B) 口腔内・歯科受診調査結果

歯数（平均値）

永久歯数 25 本、乳歯 0.86 本、現在歯数 26 本であった。

DF 歯数（平均値）

D 歯数 0.70 本、F 歯数 6.6 本、DF 歯数 7.3 本であった。

歯垢、歯石

DI 2.0、CI 0.67、OHI 2.6、OHAT 1.6 であった。

栄養摂取方法

経口 95%、経管 1.7%、経口および経管 0.69%であった。

歯科受診時の状況

導入時：難 0%、一部難 16%、問題なし 71%、予防処置：難 25%、一部難 28%、問題なし 43%、侵襲的処置：難 35%、一部難 22%、問題なし 29%であった。

歯科治療困難な要因

不安 53%、過敏 13%、集中困難 22%、コミュニケーション困難 31%、開口困難 20%、不随意運動 11%、疾患への対応 0.51%、誤嚥 1.9%、その他 0.86%であった。
意思決定者
本人のみ 1.5%、本人 + 家族 64%、家族のみ 29%であった。

(2) 国外調査結果

デンマーク王国コペンハーゲン大学病院 (Copenhagen University Hospital、Rigshospitalet) 歯科希少疾患センター、コペンハーゲン大学歯学部およびデンマーク首都地域 (Region Hovedstaden) ゲントフテ市の障害者歯科センターにて、障害者歯科および家族のウェルビーイングに関する情報収集を行い、現地研究者らと意見交換を行った。日本の障害者歯科システムは、デンマークのシステムをモデルとして発展してきたが、デンマークではより人権やウェルビーイングについての考え方が一般市民に浸透していることが明確となった。調査の結果、障害のある人への歯科医療については、これらのセンターのほか、国がすべての自治体において実施することを保障するなど、日本との違いも明らかとなった。一方で、センター形式で実施している自治体だけでなく、一般診療所や障害者歯科を専門とする民間事業者へ委嘱している自治体があるなど、財政的な問題から官から民への移行が一部でみられた。デンマークの社会システムにおける家族ケアと障害者歯科医療の充実が、家族のウェルビーイングに寄与していることが示された。これらは、日本において障害者歯科医療を平等に広めること、ならびに歯科医療を通じてウェルビーイングを達成するための要因を探り、方策をたてるうえで意義があると考えられた。

(3) まとめ

アンケート回答と口腔内調査結果をもとに家族のウェルビーイングと障害当事者の口腔環境の関連についての分析を試みた結果、家族 (回答者) の属性や支援状況ごとに口腔環境とウェルビーイング指標との相関も認めたことから、口腔環境の改善や歯科医療現場での家族へのサポートが家族のウェルビーイングを向上させる可能性を示している。またデンマークで得た知見は、日本の障害者歯科システムの発展にも寄与し、歯科医療を通じた障害のある患者の家族全体のウェルビーイング実現の戦略を構築する上でかかせない視点であると考えられた。日本国内においてもこれらのシステムおよび障害者歯科の充実ならびに歯科医療の家族支援の役割の見直し等の必要性が示された。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計2件（うち査読付論文 2件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

| | |
|--|-----------------------|
| 1. 著者名 村上 旬平、安藤 早礎、秋山 茂久、米倉 裕希子、新家 一輝、竹中 菜苗、森崎 志麻、稲原 美苗、高橋 綾、阪本 敬、鬼頭 昭吉 | 4. 巻 43 |
| 2. 論文標題 親の心理的サポートニーズと健康関連QOL, 育児ストレスの関連 | 5. 発行年 2022年 |
| 3. 雑誌名 日本障害者歯科学会雑誌 | 6. 最初と最後の頁 17 ~ 25 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.14958/jjsdh.43.17 | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|---|-----------------------|
| 1. 著者名 村上旬平, 米倉裕希子, 高橋 綾, 稲原美苗, 新家一輝, 竹中菜苗, 森崎志麻, 秋山茂久 | 4. 巻 44 |
| 2. 論文標題 障害者歯科における多職種による親への心理的サポートプログラムの試み | 5. 発行年 2023年 |
| 3. 雑誌名 日本障害者歯科学会雑誌 | 6. 最初と最後の頁 52 ~ 61 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.14958/jjsdh.44.52 | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

〔学会発表〕 計5件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

| |
|---|
| 1. 発表者名 和田 真実, 佐伯 直哉, 竹中 菜苗, 森崎 志麻, 村上 旬平, 秋山 茂久 |
| 2. 発表標題 障害者歯科における心理専門職との連携による効果 |
| 3. 学会等名 第24回日本歯科医学会学術大会 |
| 4. 発表年 2021年 |

| |
|--------------------------------------|
| 1. 発表者名 阪本 敬, 鬼頭 昭吉, 村上 旬平, 秋山 茂久 |
| 2. 発表標題 障害者歯科受診患者の保護者のQOL調査 |
| 3. 学会等名 第24回日本歯科医学会学術大会 |
| 4. 発表年 2021年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 鬼頭 昭吉, 阪本 敬, 伊藤 美咲, 村上 旬平, 秋山 茂久 |
| 2. 発表標題 障害者歯科医療従事者の共感力調査 |
| 3. 学会等名 第24回日本歯科医学会学術大会 |
| 4. 発表年 2021年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 笠川 あや, 鬼頭 昭吉, 関根 伸一, 中島 好明, 赤松 由佳子, 佐伯 直哉, 阪本 敬, 村上 旬平, 秋山 茂久 |
| 2. 発表標題 障害者歯科医療現場における障害のある子をもつ母親への支援効果 |
| 3. 学会等名 第24回日本歯科医学会学術大会 |
| 4. 発表年 2021年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 松本 夏, 村上 旬平, 尾田 友紀, 森本 雅子, 神前 圭吾, 市川 愛希子, 石田 啓, 秋山 茂久. |
| 2. 発表標題 障害者歯科診療施設の患者への口腔アセスメント結果 |
| 3. 学会等名 第40回日本障害者歯科学会 |
| 4. 発表年 2023年 |

〔図書〕 計3件

| | |
|---------------------------------------|-----------------|
| 1. 著者名 熊澤 海道ほか | 4. 発行年 2022年 |
| 2. 出版社 デンタルダイヤモンド社 | 5. 総ページ数 273 |
| 3. 書名 臨床医のための小児歯科 Basic & Casebook | |

| | |
|--|-----------------|
| 1. 著者名 向井美恵, 佐藤陽子, 井樋加奈子, 千綿かおる, 篠塚 修, 小笠原 正, 田中陽子, 秋山茂久, 大岡貴史, 村上旬平, 角谷久美代, 金高洋子, 藤原富江, 溝口理知子, 小暮弘子, 日山邦枝, 柴田由美, 小田奈央, 筒井 睦, 村井朋代, 中野恵美子, 芳賀留美, 望月かおり, 三輪直子, 石井里加子, 南 菜穂子, 高木信恵, 花房千重美, 植田郁子 | 4. 発行年 2023年 |
| 2. 出版社 医歯薬出版 | 5. 総ページ数 200 |
| 3. 書名 歯科衛生学シリーズ 障害者歯科学 | |

| | |
|---|-----------------|
| 1. 著者名 柿木 保明, 野本 たかと, 梶 美奈子, 一戸 達也, 白川 哲夫, 關田 俊介, 筒井 睦, 弘中 祥司, 八若 保孝 | 4. 発行年 2022年 |
| 2. 出版社 永末書店 | 5. 総ページ数 200 |
| 3. 書名 歯科衛生士講座 障害者歯科学 第3版 | |

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

| | 氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号) | 所属研究機関・部局・職 (機関番号) | 備考 |
|-------|-----------------------------------|------------------------------|----|
| 研究分担者 | 尾田 友紀 (Oda Yuki) (40641949) | 広島大学・病院(歯)・講師 (15401) | |

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

| 共同研究相手国 | 相手方研究機関 | | |
|---------|-----------------------|--|--|
| デンマーク | Copenhagen University | | |